

## モモの新品種‘白麗’の育成

誌名	岡山県農業総合センター農業試験場研究報告 = Bulletin of the Agricultural Experiment Station, Okayama Prefectural General Agriculture Center
ISSN	13466658
巻/号	19
掲載ページ	p. 25-27
発行年月	2001年12月

# モモの新品種 ‘白麗’ の育成\*

笹邊 幸男・藤井雄一郎・各務 裕史・片岡 正治\*\*  
木村 剛\*\*\*・紅谷 文夫\*\*\*\*・平松 竜一\*\*・依田 征四\*\*\*\*\*

## A New Peach Cultivar ‘Hakurei’

Yukio Sasabe, Yuichiro Fujii, Hiroshi Kagami, Masaharu Kataoka\*\*,  
Tsuayoshi Kimura\*\*\*, Fumio Benitani\*\*\*\*, Ryuichi Hiramatsu\*\*, and Seishi Yoda\*\*\*\*\*

### 緒 言

岡山県の特産品であるモモは果皮着色が少なく、肉質がち密で柔らかく、多汁質であることから、付加価値が高い。特に白桃は1899年、赤磐郡可貞村（現赤磐郡熊山町）の大久保重五郎氏の園で偶発実生として発見されて以来、岡山県を代表する主要品種となっている。その後、1910年頃に同氏の白桃園から偶発実生として発見された‘大久保’も一時は全国的に栽培されていた。しかし、近年になって消費者が果実の大きさより食味を重視するようになり、高糖度品種への転換が必要とされてきた。

そこで、当场では新品種を育成するため、様々な組合せで交配を行い、有望個体を選抜してきた。その中で、白桃と同時期に成熟し、白桃より渋味<sup>1,2)</sup>が少なく、花粉を有する個体を選抜した。この個体は1999年7月に‘白麗’の名称で品種登録して公表されたので、その育成経過と特性の概要を報告する。報告にあたり、選抜材料を交配し、移譲していただいた故東山四郎氏及び故井上航一氏に深謝の意を表す。

### 育成経過

1968年、岡山県笠岡市の東山四郎氏が‘大久保’に中国原産の‘肥城桃’を交配し、3系統（系統番号‘43-1’、‘43-2’及び‘43-3’）を、また、1983年、東山四郎氏と

共同研究していた同県赤磐郡瀬戸町の井上航一氏も同じ組合せで交配し、5系統（系統番号‘井上-1’、‘井上-2’、‘井上-3’、‘井上-4’及び‘井上-5’）を育成した。これら8系統は1985年9月、岡山県立農業試験場（現岡山県農業総合センター農業試験場）に移譲された。農業試験場ではこれら系統を1977年から1980年までその特性を調査し、3系統（43-1、43-3及び井上-4）を一次選抜した。これらは2個体ずつの複製個体を育成し、1980年から1994年まで二次選抜試験を行い、系統番号43-3を1994年に優良系統として選定した。この系統は1999年7月に‘白麗’の名称で品種登録し、公表された。

### 特性の概要

#### 1. 形態的特性

##### (1) 樹の特性

樹姿は中間性であるが、若木は直立性が強く、成木になると開張しやすい。樹の大きさは中程度で、白桃よりやや小さい。樹勢は白桃と同じく強勢である。枝梢の大きさは中程度で、長・中果枝は白桃に比べてやや細い。節間長は短かく、枝梢の色は赤褐色である。成葉の葉身の形はやや短形、鋸歯の形は浅形、葉縁の波打ちは中、大きさはやや小、葉色は緑色であるが、白桃に比べて薄い。蜜腺の形は球腎である。花形は普通咲きで大きさは中、花卉の数は単弁で形は円形、花色は淡桃色、花粉は有、

\*本報告は平成12年度日本園芸学会春季大会で発表した。

\*\*現阿新農業改良普及センター、\*\*\*現岡山農業改良普及センター、\*\*\*\*現岡山県庁農林水産部生産流通課、

\*\*\*\*\*現JA岡山

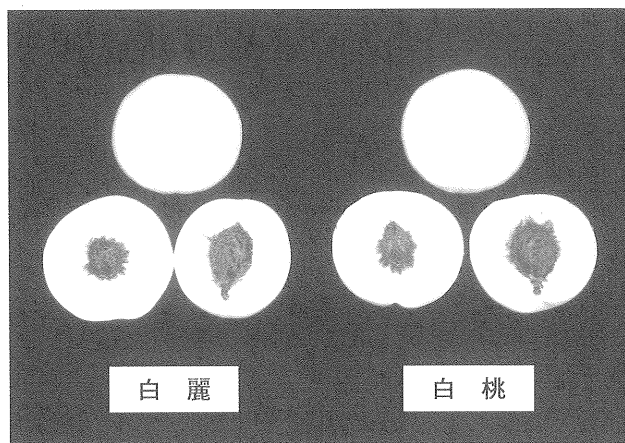
2001年5月14日受理

がく筒の形は鐘形、がくの色は淡紅色である。

## (2) 果実の特性

果実の外観は円形、果頂部の形は凹形、赤道部及び果頂部の縫合線は中、果実の大きさは大で、平均果実重293gと白桃とほぼ同程度である。果皮の地色は乳白色で、着色範囲及び濃さは、無袋栽培の場合はいずれも中程度であるが、有底オレンジ袋を掛けた場合は斑状で微程度である。切った直後の果肉の色はクリーム色、果肉内の着色は無く、核周囲の着色は多い(第1図)。

果実の肉質は軟らかく、ち密で、果肉繊維は中程度で、白桃よりやや多い。果皮は剥皮し易く、果汁は多く、甘味はかなり多く、糖度は平均15.3度あり、白桃の平均



第1図 白麗の果実外観

第1表 過去14年間における‘白麗’の果実特性

品種名	年次 (年)	樹齢 (年)	成熟期			果実重 (g)	糖度 (%)	酸度 (pH)	食味値 (1~9)	渋味値 (0~6)	核割れ率 (%)
			始期	盛期	終期						
白麗	1987	8				322	13.6	—	7.0	0	42.9
	1988	9				282	14.4	4.8	6.0	0	20.0
	1989	10	8/2	8/4	8/7	256	14.8	4.7	6.0	0	10.0
	1990	11	8/9	8/11	8/13	290	15.9	4.3	7.2	0	30.0
	1991	12	8/9	8/12	8/15	233	15.8	4.6	7.6	0	10.0
	1992	13	8/10	8/14	8/19	363	14.2	4.3	7.8	0	24.4
	1993	14	8/9	8/13	8/18	299	15.8	4.6	7.6	0	11.1
	1994	15	8/9	8/13	8/18	279	17.1	4.0	8.0	0	20.0
	1995	16	8/14	8/17	8/21	329	16.6	4.2	9.0	0	20.0
	1996	17	8/19	8/22	8/26	280	16.5	4.5	9.0	0	40.0
	1997	4	8/9	8/11	8/13	288	15.2	4.5	9.0	0	11.0
	1998	5	8/3	8/5	8/7	258	15.2	4.2	9.0	0	0.0
	1999	6	8/9	8/12	8/20	315	15.1	4.0	8.4	0	15.8
2000	7	8/18	8/22	8/25	302	13.8	4.3	7.6	0	0.0	
平均			8/11	8/14	8/18	293	15.3	4.4	7.8	0	18.2
白桃	1987	3	8/7	8/8	8/10	219	12.9	—	8.0	0	20.0
	1988	4	8/11	8/17	8/24	239	12.9	4.3	8.0	0	20.0
	1989	5	8/4	8/10	8/16	260	13.1	4.9	5.0	5	10.0
	1990	6	8/3	8/9	8/16	266	13.4	4.6	8.0	1	10.0
	1991	7	8/7	8/13	8/19	243	12.8	4.7	6.4	1	10.0
	1992	8	8/6	8/11	8/17	347	13.1	4.5	6.4	1	60.0
	1993	9	8/9	8/13	8/18	271	12.8	4.7	6.4	1	10.0
	1994	10	8/9	8/13	8/18	304	11.8	4.5	6.3	2	20.0
	1995	11	8/14	8/17	8/21	330	12.2	4.7	6.0	0	0.0
	1996	12	8/19	8/22	8/26	269	13.2	4.5	6.0	0	0.0
	1997	13	8/6	8/12	8/18	313	13.2	4.5	6.0	0	80.0
	1998	14	8/3	8/5	8/7	351	12.8	4.4	6.0	1	10.0
	1999	15	8/4	8/8	8/13	417	12.6	3.9	4.7	6	70.0
2000	16	8/11	8/17	8/23	319	12.6	4.3	5.5	5	26.6	
平均			8/9	8/14	8/18	296	12.8	4.5	6.3	1.6	24.8

注) 食味値: 1 (下下) ~5 (中中) ~9 (上上) の9段階評価

渋味値: 0 (無) ~1 (微) ~2 (少) ~4 (中) ~5 (や多) ~6 (多) の7段階評価

12.8度より高い。酸味は微、白桃と異なり渋味及び苦味は無い。

核は長楕円形で大きく、色は濃褐色、核面の粗滑は中程度で粘核である。核割れの発生は微～少程度で、裂果は無い。果実の日持ちは良である。

これらの結果から「白麗」は高糖度で、食味が白桃より優れている。

## 2. 栽培的特性

若木は樹姿が直立しやすいが、成木になると開張し、樹勢が弱りやすい。開花期は育成地（赤磐郡山陽町）においては4月中旬で白桃とほぼ同時期である。花粉を有するため人工受粉はしなくても良い。成熟期（満開～成熟までの日数）は121～130日で、育成地では8月中旬で白桃とほぼ同時期である（第1表）。

生理的落果は多く、満開後60～80日頃までの落果が多い。落下した果実はほとんどが核の縫合線に沿って核割れしている。生理的落果を抑制するためには着果管理を周到に行う必要がある<sup>3)</sup>。満開後14～30日頃にも初期の生理的落果が発生しやすいことから、摘蕾は行わない方

がよいと考えられる。葉色が薄い特性を有するため、白桃と同程度の葉色が濃くなるまで肥料を多く施さないようにする。また、さび病、せん孔細菌病には弱い。

## 摘 要

岡山県農業総合センター農業試験場で選抜し、品種登録した「白麗」は白桃と同時期に成熟し、白桃より高糖度で、渋味が少なく、花粉を有する特性があるため、白桃の欠点を補える品種として有望と考えられる。

## 引用文献

1. 久保田尚浩・三村博美・島村和夫（2000）渋味との関連からみたモモおよびネクタリン成熟果実におけるフェノール含量の品種間差異，園芸雑，**69**：35-39.
2. 久保田尚浩・三村博美・葉師寺浩子・島村和夫（1992）モモ果実における渋み発生の果樹園、樹体および果実内部位による差異，岡山大学農学報，**79**：45-51.
3. 岡山県うまいももづくり対策本部（2000）「白麗」栽培の手引き，PP10.